

コラム①： 3月に発生が予想される病害虫について

1 水稲（一期作）移植期におけるスクミリンゴガイの防除対策

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）について、移植期からの早めの対策が重要です。

防除上注意すべき事項

- (1) 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する(図1, 2)。なお、捕殺するときにはゴム手袋を着用する。
- (2) 取水口に侵入防止網（目合い6～9mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- (3) 本田での食害が集中する移植後2～3週間頃から浅水管理（1cm以下）に努め本種の活動を抑えるとともに、薬剤を施用する。
- (4) 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない（図3）。



図1 成貝



図2 卵塊



図3 周囲の雑草に産卵された卵塊

2 オクラにおけるトンネル被覆除去後のアブラムシ類の防除対策

春先に、アブラムシ有翅虫（図1）が多くみられます。トンネル被覆除去後のオクラほ場では、この時期にアブラムシ類が飛来し、急激に増殖します。生育初期にアブラムシ類に多く寄生されると生長が著しく阻害されることから、こまめに発生状況を確認し、早期防除するよう努めましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 葉裏、蕾、幼果など、あらゆる部位に寄生する（図2）。
- (2) 生長点付近に寄生すると、葉の奇形や生長抑制を引き起こす。
- (3) 多発すると排泄物によりすす病が誘発される。



図1 有翅成虫



図2 葉裏に形成されたコロニー

2 防除上注意すべき事項

- (1) シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- (2) ほ場周辺の雑草は発生源となるので除去する。
- (3) 天敵による密度抑制も期待できるので、殺虫剤(散布剤)の多用は避ける。